

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500406
法人名	社会福祉法人すいよう会
事業所名	グループホーム陽だまり
所在地	新居浜市郷3-16-40
自己評価作成日	平成21年6月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

毎年事業所計画を立て、目標や課題解決に向かって具体的に取り組んでいる。また事業所内では管理職研修、人材育成、認知症ケア勉強会、介護技術勉強会、職員会、感染症食中毒委員会、事故防止委員会、環境整備委員会、ホームページ委員会、ホーム内でのミーティング及び勉強会、報告会施設長との面談、介護質向上のためのマイプランを作成などが行われ、事業所全体の意識向上と自己研鑽を行っている。また、事業所外でも、GH連絡協議会や愛媛県社会福祉協議会の主催への勉強会に参加している。他に、地域包括支援センターで行われている介護支援専門員協議会の勉強会に参加している。運営推進会議においては、施設長が参加者に認知症の勉強会を開催して下さり皆さんから感謝の評価を頂いている。また小、中、高、大学生の実習も受け入れ、幅広く認知症を理解して頂くために取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

自治会に加入し、清掃活動時には利用者とともに参加されている。又、地域の盆踊り大会にも参加し、職員、利用者で盆踊りを楽しまれた。法人の夏祭りには、地域の方が多く訪れ、利用者との交流の機会にもなっている。散歩時には、ご近所の方から声をかけていただいたり、野菜をおすわけてくださることもある。元職員の集まりの「OB会」の方達が、外出時のサポートや草取り等のボランティアに来てくれている。
運営推進会議には、他事業所の職員やご家族も多数参加されており、行事報告をされたり、法人の施設長が認知症やグループホームについてお話しされ、皆で勉強されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 陽だまり

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

平田 淳子

評価完了日

平成21年6月29日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所全体の理念とホームでの理念があります。その理念を共有する為に、事業所が行っている研修会（人材育成）があります。また、ホームの理念では、スタッフの心の指針として誰もが見えやすい所に掲げています。	
			(外部評価) 法人の理念「利用者とともにそして地域のパートナーとして」をもとに、事業所では、利用者地域との交流も視野に入れて「私達はゆったり笑顔で、本人に寄り添います」という理念を全職員で作成されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所で行われている盆踊り、地域の方が出展されている展覧会、自治会に加入している。スタッフがこの自治会の方が居られるので、交流はある。また、今年から陽だまりのOB会（メンバーは地域の方がほとんど）が結成され、これからの関わりを深めていきたいと考えている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、清掃活動時には利用者もともに参加されている。又、地域の盆踊り大会にも参加し、職員、利用者で盆踊りを楽しまれた。法人の夏祭りには、地域の方が多く訪れ、利用者との交流の機会にもなっている。散歩時には、ご近所の方から声をかけていただいたり、野菜をおすそわけして下さることもある。元職員の集まりの「OB会」の方達が、外出時のサポートや草取り等のボランティアに来てくれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議では認知症の勉強会を行い、地域の人々への理解を深めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議が開かれ、利用者の家族、市役所、自治会の方々の意見をサービス向上に活かしている。自動火災通報装置ではホーム近くに住んでいる自治会の方がメンバー登録して下さった。また、認知症ケアの勉強会を行うことによって、地域ご家族の理解が深まっている。最近ではデジカメでの映像をメンバーに見て頂き、ホームでのありのままの生活を理解して頂いているように思う。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議には、他事業所の職員やご家族も多数参加されており、行事報告をされたり、法人の施設長が認知症やグループホームについてお話しされ、皆で勉強されている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護支援専門員連絡協議会のメンバーであり、地域包括支援センターや市の介護福祉課との交流が出来る。また、制度改正では分からない点が多く介護福祉課とやり取りをさせて貰った。また、保険者として運営推進会議に出席して頂き、以前より身近な存在になっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>管理者は、地域包括支援センターで行われている介護支援専門員連絡協議会の勉強会に参加されている。2ヶ月に1回、介護相談員の訪問を受け入れておられる。市の担当者は、運営推進会議が日曜日や夜間でも出席して下さり、市主催の研修を案内していただいたり、ケアについて感想をもらっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフは拘束しないケアに努めている。但し、ご本人の安全、生活の質を守る為に夜間のベッド柵の拘束はご家族から了解を得ている。また昼間もその危険性がある為、事故が起こるより安全な方が良いとご家族から言われているが、拘束せずスタッフが共通意識を持ち、見守り支援を行っている。また門扉は地域の方が自然にホームへ入って来れるよう昼間は開けるように検討中である。これは、スタッフからの要望があり、スタッフ全員が共有出来るよう話し合いを行う。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>現在、日中、門扉は開放されており、職員の提案もあり、地域の方達も訪問しやすい事業所作りを目指しておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について職員会や研修などで学ぶ機会がある。また職員同士でストレスがたまらないよう、職員一人では抱え込まないよう、職員同士で心配りをしている。「ありがとう」の感謝言葉の溢れるホーム作りに努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度については事業所内での研修できる機会があり、理解を深めるようにしている。当ホームは今迄必要と考えられる利用者は居なかったが、必要に応じて活用出来るよう制度について周知を図っていけるよう学んでいく。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 介護報酬の改定や制度改正などにより利用料が増加する場合には、ご利用者家族、個々に説明し納得を頂いた。また、重要説明書で文書による同意を頂いている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関にはご意見箱を設けている。苦情解決窓口があり、改善に努めている。また、運営推進会議にはご家族が意見、要望を表せる機会がある。また、ご利用者自身からも意見や要望を言って下さり、スタッフを助けて頂いている。 (外部評価) 運営推進会議時、ご家族の参加が多数あり、事業所で取り組んでいる避難訓練や中学生の職場体験の受け入れ等について、感想やご意見をいただいている。事業所の行事時にはご家族もお誘いしてともに楽しまれている。	今年度の事業所の目標に「家族とのコミュニケーションを行う」と掲げておられ、管理者は、ご家族にお便りを送付される際、意見をいただけるよう一筆加えておられるが、現在は、意見を出していただくことは少なく、今後は、返信用切手を同封してみる等、工夫を重ねて取り組みたいと話しておられた。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者や管理者との面談が年2回ある。また、改善提案書随時提出出来るようになってきている。面談では、スタッフの現場の声が活かされている。最近では、他部署への研修、業務・緊急時対応などのマニュアル化や医療関係の勉強会、門扉の開閉、地域との交流などご利用者にとってより良い生活が出来ればということで意見があり、今後努めていく。	
			(外部評価) 管理者は、職員の意見を大切にされており、配膳台の利用や介護用品の利用等、利用者の状態を踏まえて、現場職員の気づきやアイデアを採り入れておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の成長表があり、自己評価をしている。それを行うことにより、代表者は職員らの個々の努力や実績を把握出来ている。また、介護職員にはもっとやりがいや向上心を持って働けるよう、給与アップが行われた。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内では、人材育成、介護技術研修、感染症食中毒予防委員会、事故防止委員会、安全環境衛生委員会、認知症ケア勉強会、管理職研修会などがある。法人外では、愛媛県GH連絡協議会、愛媛県社会福祉協議会、介護支援専門員連絡協議会などの研修や勉強会に参加している。また、特に新人に対してはOJTを実施し、人材育成に力を入れている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県GH連絡協議会主催の相互研修、地域包括支援センター主催の介護支援専門員の交流会、GH相互の見学などを行って、ネットワークづくりや勉強会を行い、サービスの質向上に努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始前には必ず本人に会って、本人に受け入れられるような関係作りに努力している。また本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人との信頼関係作りに努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ここ2年以上利用者の出入りはないが、サービスの利用開始時には、家族の困っていることなどを丁寧に傾聴している。そうすることによって本人や家族に安心して頂け、スタッフは支援しやすい。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、その方のなじみの関係を大切にしている。例えば、お友達や姉妹などその方の大切にしている人間関係が続くよう努力している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご利用者一人ひとりの個性や出来ることを知ることによって、スタッフは教えて頂いたり、助け合ったりしている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>「介護はプロに、愛情はご家族に」と言われているが、運営推進会議やケアプランの説明時にはご家族に話し、家族から理解を貰っている。「ご家族とのコミュニケーションを行う」今年度のホームの目標の一つに掲げている。本人と家族との絆を大切にしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の友人や姉妹の訪問は入居来行われている。他に故郷訪問、地域の行事参加、馴染みの関係が出来ている退職された職員との交流などが行われている。また、本人の気持ちをくみ取り支援に努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>趣味として長く続けておられる陶芸教室への送迎をされたり、又、オカリナ演奏に来てくださる先生を利用者は楽しみにされており、先生とは散歩にも一緒に行かれることもある。以前からの知り合いが訪ねて来てくれる時には、昼食も用意してゆっくり過ごせるよう気配りされている。又、OB職員の方達も訪ねて来てくれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者同士の助け合い、支えあいが行われている。具体的には、車椅子の方へのさりげなく生活援助があったり、気の合う同士の散歩や食事、部屋への訪問などが行われている。また、利用者同士のトラブルのないようにスタッフは前々察知して対処にあたっている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 2年以上は住み替えは行われていないのが実情。また、住み替えが必要になった場合には、これまでの関係性を大切に、フォローし、相談や支援に努めていく。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 月1回のミーティングにおいて、利用者一人ひとりのカンファレンスが行われている。その方の「快」「不快」などを皆で話し合い、スタッフの利用者に対する意識が共有化されている。また、日々の細かいご利用者の変化にはその都度ミニカンファレンスが行われている。	
			(外部評価) 日々のケア記録の中に、ご本人の言葉や行動等を詳細に記入して、職員で共有されている。	管理者は、さらに、利用者個々の思いを支援につなげていくためにも、アセスメントの充実をすすめていきたいと考えておられた。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ホームに住み慣れている方が多いが、家族との話しの中で個々の歴史などの情報収集をさりげなく行っている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) スタッフ皆で、本人の一日の生活を通して、出来ること、わかる力を暮らしの中で把握しようと努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>本人の「快い生活とは」を常に追求しながら、職員は介護計画を立てている。日常の何気ない会話からニーズを引き出し、介護計画に反映させている。問題がある場合は、ミーティングで話し合い必要に応じプランを変更している。また、ミニカンファレンスにおいて、意見を出し合い、現状に即したプランであるかの確認は定期的に行われている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族に介護計画について説明して、ご意見をうかがい、毎週行うミニカンファレンスでは、ケアサービスの提供状況について話し合い、利用者の現状に即したケアが行えるよう取り組まれている。</p>	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>個別日誌や健康チェック表において、情報を共有している。また、個別日誌ではケアプランを生かし、具体的な関わりや職員の気づきなどを記録している。月1回のモニタリングに反映されている。</p>	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>利用者のニーズに対して、柔軟で臨機応変な支援をしている。具体的には、自室での食事、ドライブ、散歩、買い物などその時その時のニーズに答えている。</p>	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>今以上に地域資源と協働していきたいと考えている。現状は、オカリナ演奏や陶芸教室の参加、盆踊りの地域行事への参加など。これからも地域資源のボランティアが参加して下さればと思っている。スタッフのOB会らが参加して下さるようホームとしてプロジェクトの計画中である。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 現状は家族との同意のもと、かかりつけ医を基本とし ている。本人や家族の希望により、必要に応じて、他 の認知症の専門医や必要な診療科への受診も行って いる。	
			(外部評価) 事業所の協力医や専門医の受診には、職員が同行され ており、医師に日常の様子を伝え、連携を図っておら れる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 普段の健康管理や観察の視点など、日ごろから介護職 員と看護職員との関係を密にし、情報連携を行って いる。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい	(自己評価) 入退院する際には医療機関との相互に本人の情報提供 を行っている。長期入院になる場合は、スタッフは病 院に行き、本人の状態を把握している。また、家族と の連絡を積極的に行っている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りケアの指針の勉強会を行い、スタッフで共有化 している。ご家族への説明も行っている。事業所内で 「看取り」の勉強会が行われ、ご家族にも勉強する機 会がある。また看取り介護についての同意書及び本 人、家族の意向や意思の確認を再々行うよう確認書 を作成している。	
			(外部評価) 利用者ご家族に、「看取りに関する指針」に基づき、 事業所でできる支援について説明をされており、状態 変化時等にはご本人の様子を伝えながら、ご本人ご家 族が今後のことを決められるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時や事故発生時の緊急連絡マニュアルがある。特に夜間対応では、単独判断しないように教育している。事業所での事故防止委員会に参加し、勉強会が行われ、スタッフにも伝えている。スタッフは応急手当の教本あり、看護師からの勉強会が行われ、技術習得を行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に、年2回の避難訓練の実施、年1回の消防署への通報訓練の実施を行っている。事業所の応援体制が出来ている。また、地域の方に自動通報装置の登録メンバーになって貰っている。災害の発生時に備えては、事業所では水や食料、オムツなどの準備をしている。 (外部評価) 日中と夜間想定での避難訓練を実施されている。地域の方の連絡先を自動通報装置に登録されている。法人内事業所からの応援ももらえるようになっている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ミーティングや勉強会などで話し合ったり学んだりしている。一人ひとりの人格を尊重するためには、本人をよく理解することが大切だとスタッフは知っている。 (外部評価) 職員は、利用者に対して穏やかに声かけされており、職員は、言葉かけ等、ご本人の気持ちを大切にしながらかわっておられた。利用者の居室に入る際、職員は、声かけやノックをされていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思表示出来にくい利用者に対して、本人の気持ちを表情や全身での反応を注意深くキャッチしていくことは難しい。普段と違う表情やしぐさでキャッチし、寄り添いケアをしながら、探っているのが、今の段階である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その方の本来のペースや望んでいるペースに合わせた暮らしが出来るよう支援している。一日の過ごし方を柔軟に変えている。本人の言葉や表情を大切にすることを優先している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みや意向で、季節感のない洋服になったり、何重にも重ね着したり、昼夜逆転の服を着たりしている。タイミングを見計らって、プライドを傷つけないようにさりげなく声掛けを行っている。また、利用者の中には化粧に興味がある方がおられ、そのことが出来るよう声掛けを行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者との食事作りや利用者との食事は家庭的な雰囲気 で利用者との楽しみの一つだと職員は知っている。また、利用者にとって、台所仕事は力の発揮出来る場所となっている。利用者の中には他の利用者に気兼ねして食堂での食事が出来ない方が居られる。その方には個別対応をしている。	
			(外部評価) 職員は、好みのメニューを利用者に聞かれたり、配膳、下膳、買い物も一緒に行い、食事作りをされている。「利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂ること」の大切さを感じておられた。利用者は、特に若い職員に味付けや食材のこと等を教えてくださっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養面では栄養士が献立を立てている。水分確保については自己管理できない利用者には水分量チェックを行っている。職員全員が知識や意識を持って声援している。また、スタッフは本人の食べ物や飲み物の好みを知っている。食わず嫌いだった食品でも食べられるようになった方がおられる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後のケアを行っている。利用者によっては、声掛けだけで終わっている方がおられるが、その方には食後のお茶などで対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェック表でパターンを把握している。また利用者の動く様子で先取りケアに努めている。スタッフは最期の最期までトイレでの排泄支援をと思っているが、利用者の身体機能低下で紙オムツになった利用者がある。 (外部評価) 排泄パターンに合わせ誘導されたり、利用者の動きにも注意を払い、失禁を減らすことができるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表での便の確認を行っている。便秘にならないよう、繊維質の多い食材や水分量(冷たい飲み物)に気をつけている。また、お腹のマッサージ、身体を温めたりしている。自然排便を促す工夫を個別に行っている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に合わせて入浴支援を行っている。例えば、毎日入浴したい方には毎日入浴を、入浴を拒否される方には、スタッフで工夫し、なるべく入って頂けるよう工夫し合っている。時間帯は午後から夕食前の時間になっている。 (外部評価) 毎日入浴する方や2人で誘い合わせて入浴される方等もある。入浴がお嫌いな方には時間をおいて声をかけたり、きっかけを見つけて声をかける等、工夫されている。利用者の体調や状態のこともあり、入浴がむづかかったような方がおられたが、話し合いや支援を重ね、現在、浴槽で温まれるようになったという事例もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人生活習慣を大切にしている。一人ひとりの睡眠パターンが違うので、それを大切にしている。眠れない時には寄り添いケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬する薬の目的や副作用、用法や用量について理解するために、看護師により勉強会を定期的に行っている。本人の状態の経過や変化など看護師との連携は出来ていて、その都度指示がある。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の役割や楽しみごとの支援の必要性をスタッフは知っている。スタッフは支援に努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外出できるよう個別ケアの工夫に取り組んでいる。将来はスタッフのOB会や有償ボランティアの力をお借りし、その日の希望にそって出来かけられるよう支援して行きたいと考える。また、南側空き地を地域の公園にしていく、いつでも戸外に出れば、いつでも誰かが居るような地域の縁側作りをしていきたいと計画である。	
			(外部評価) 職員の勤務を調整しながら、利用者個々の外出を支援されている。誕生日には、希望をお聞きして外食や喫茶店にも出かけておられる。	管理者は、OB会やボランティアの協力を得て、さらに「利用者みんなで外出をして楽しめるような機会」を増やしたいと考えておられる。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解している。利用者の中には預かり金として事業所が預かっている場合がある。その場合は用途に関する相談や金額の報告、出納帳の報告が行われている。また、これからも外出時や買物時には、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持出来るよう支援工夫をしていく。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の力量に応じて、電話を掛けたい時には、スタッフに申し入れを行っている。希望通りにしている。利用者から手紙の希望はないが、絵手紙などを支援していく方法も考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関や居間の長椅子は利用者の快い場所となっている。台所は利用者が入り易いようにスペースを広くした。食堂は車椅子の方が増えたので、工夫をして今の設定になっている。家族やスタッフが季節の花を活け季節感をかもしだしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>天井が吹き抜けになっており、自然の光が入っている。玄関の椅子に腰かけ、ゆったりと過ごされていた利用者の姿がうかがえた。共用空間にはお花が飾られていた。</p>	法人の敷地内の空き地を法人内スタッフの方達と協力し合って、地域の人達が気軽に立ち寄れる公園となるよう、整備が始まっている。今後も職員でアイデアを出し合い、利用者の生活を上げられるような環境作りには工夫を重ねていかれてほしい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>気の合った利用者同士、気軽に出来る空間があちこちにある。また、人との関わりを嫌う利用者には一人になれるように自室や別の部屋の利用が出来るようになっている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者や家族の持ってこられた物を使用している。出窓や棚には花や家族写真、本人の好きな縫いぐるみなどが置いてある。壁には孫の絵や孫の名前などを貼っている。本人の気に入っているクッションがあり、居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室に備え付けのタンスやベッド、テレビがあり、利用者の使いやすい配置に移動されていた。カーテン等で仕切り、居室と居室の間に洗面所とトイレが設置されている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>自室やトイレ、風呂などの場所が分かるように明記して知らせている。これによって、不安や混乱、失敗を招くことが少なくなった。</p>	